

# 都市景観を考える

東京・丸の内と東京海上ビルを題材にして

日時： 2021年11月20日（土）16時～18時  
場所： ウェブ開催 ※URLはお申込み後にご案内します。  
申込方法： ウェブサイトからお申込みください  
(<https://tmib.tokyo/>)



ウェブサイトQRコード

## 開会・閉会挨拶

高崎経済大学経済学部 准教授

澤田 悠紀

## 基調講演

株式会社前川建築設計事務所 代表取締役

橋本 功

## 講演①（景観に関する法規制の概要※）

早稲田リーガルcommons法律事務所  
豊島オフィス代表・弁護士

尾谷 恒治

## 講演②（丸の内をテーマとした講演※）

日本大学文理学部 教授

松橋 達矢

## 講演③（東京海上ビルをテーマとした講演※）

有限会社香山建築研究所 会長

香山 壽夫

※具体的な講演題目は決定次第ウェブサイトにてご案内します

都市の景観は、そこに関わる人々の市民的活動と建築物の相互作用により形成されるものであり、そのあり方は社会そのものの縮図である側面を有します。

東京駅と皇居を結ぶ行幸通りを中心に有名企業の本社・本店が立ち並ぶ東京・丸の内は、明治期以降の我が国を象徴する地域の一つです。この丸の内の景観は、様々な議論の対象となりました。こうした議論を振り返ると、それらが生じた時期は、いずれも時代の転換期と重なります。このことは、都市の景観と社会のあり方との関係を示唆するものと考えられます。

現在、我々の社会は、大きな転換点にあり、将来に向けての選択を迫られている時期にあります。こうした時期に、モダニズム建築家・前川國男の代表的建築物であるとともに、1960年代の「景観論争」の契機となり、現在の丸の内を象徴する建物である東京海上ビル（東京海上日動ビル）の建替えが検討されていることは偶然ではないと思われれます。

本シンポジウムでは、都市の景観をテーマとして議論を行い、そのための題材として、丸の内と東京海上ビルを取り上げます。その議論の射程は、丸の内と東京海上ビルにとどまるものではなく、我が国の様々な都市が抱えている景観の問題、延いてはそこでの市民生活のあり方の問題に及ぶものと考えています。そのため、丸の内の景観にご関心をお持ちの方は勿論のこと、津々浦々で都市景観の問題に取り組んでおられる多くの方々に本シンポジウムにご参加いただきたく思っており、また、ここでの議論が問題への取組みの一助になることを願っています。